



御降誕おめでとうございませ

つどい

637号

2020/12/24

〒204
0022
清瀬市松山一丁目二
カトリック清瀬教会
四〇四二(四九一)〇一〇四

ワクチンの接種がアメリカやイギリスで始まって、新型コロナウイルス感染収束に向かうかと思いきや、割と、抑えられているという日本でも、右上りが止まっています。

信者が宝

西川哲彌神父

菊池大司教様は、専門家の助言や、国の専門機関が出す資料を参考に、きめ細かい指示を出しておられます。それを受けて、小教区、カトリック学校、諸施設からは、クリスマスを含めて、慎重に対処し、集団感染（クラスター）発生のニュースは入っていません。

今も、日本のみならず全世界においては、第三次と言われる感染拡大の波の中にありますので、油断はできません。ワクチンの効果が確実なものになり、はっきりした収束宣言がWHO（世界保健機構）あたりから出されるまで、手を緩めることなく、三密（密閉・密集・密接）を避け、人

が触れた物や、場所の消毒の徹底を守ってゆかなければなりません。さて、年齢によるミサ出席の制限は解かれましたし、教会内での厳しい規制が緩和されてきていますので、ガラガラだった教会に信徒や求道者が戻ったり、集まり始めたかという、なかなかそうは行

かないのが現状です。クリスマスミサは別として、通常の主日のミサは、閑散としています。

どの教会も、三密を避けるために、聖堂に入る人数を通常の半分か、三分の一に絞っています。そして、その定員をかなり厳重に守っています。それが、感染防止の第一歩です。すから。いつもならクリスマスなどは、立錫の余地もないほど入り、二時間近くのミサに最初から最後まで立って参加する方々がいるくらいです。しかし、今年は新しい定員を厳守しますので、定員に達したら、入堂をお断りする方針を守ります（守りました）。仕方がありません。教区からの厳命ですから。ともかく、黙っていても人が集まるクリスマスを過ぎると、再び、閑散とした主日ミサが始まります。冬場で寒さが手伝って、ミサに信徒が集

まらないというだけではあり
ません。一年近く、「来ないで
ください、来ないでください」
を言い続けた結果、本当に来
なくなる信者さんが増えるの
ではないかと心配しているの
です、私は。

心配が杞憂に終わることを
願い、祈っています。「しばら
くは、来ない信者さんも、そ
のうち来るようになりますよ」
と、樂觀的におっしゃる方も
いますが、そうはいかないと
思います。

コロナが教えてくれた第一
のことは、信者さんの大切さ
です。実は、信者さんの信仰
が教会の命なのです。信者さ
んが、神さまを信じ、キリス
トさまの愛を感じ取り、教会
に集まって、生かされている
喜びを分かち合えることが教
会の宝であり命なのです。当
たり前じゃないかと、簡単に
言わないでください。このコ
ロナ騒動で、宝である信者さ

んが、「来るな、来るな」と言
われ、行き場を失ってはいな
いかと心配しているのですか
ら。

今回、つくづく思い知らさ
れたことは、教会の柱は、六
〇歳以上の信者さんです。そ
の柱で支えられていること、
その信者さんの信仰が、宣
教・布教の武器になっている
ことです。言い古されている
ことですが、信者は、生きて
いる宣教師です。何もしなく
ても、何を言わなくても、黙
って生きているだけで、周り
の人は何かを感じます。コロ
ナ嵐は過ぎ去って行きます。
さあ、教会を作って行きます
よう。ザビエル以来約五〇〇
年、信徒発見以来約一五〇年、
今まで作ってきた教会を作っ
て行きましょう。「宝よ、集ま
れ」これこそ天からの声です。

清瀬教会日々の出来事

今年新型コロナウイルス
感染症のため、年初から世界
的に大変な日々が続いていま
す。

東京大司教区菊地大司教様
の方針に基づき、清瀬教会に
おいても、二月二六日の「灰
の水曜日」のミサを最後に、
公開のミサができなくなりま
した。

六月二十一日から条件付で
公開ミサができるようになり
ましたが、七十五歳以上の方
の参加自粛や参加人員の制限
等で、信徒の皆様は寂しい思
いをしてきたのではないでし
ようか。今後も、年齢制限は
なくなりませんが、全地区の
方が集えるのはまだ先のよう
です。

「つどい」も何とか五月に
出すことができましたが、記
事としては大司教さまの説教

を中心としましたので、清瀬
教会の行事については省略し
ました。そのため、今号では、
去年のクリスマス以降の行事
を、振り返ってみました。

【クリスマスミサ】

昨年十二月二十四日(日)
夜半のミサの写真です。今年
は人数制限のため、例年のよ
うにみんなでお祝いできない
予定です。





【相曾賢一郎氏の

チャリティコンサート】

今年一月五日（日）の十時のミサ後、世界的なバイオリン奏者である相曾賢一郎さんのチャリティコンサートが聖堂でありました。

同氏がたまたま清瀬に帰省していたことからお願いしたところ、快く応諾していただきました。



【ボーイスカウトによる

お雑煮等の配食】

例年お正月には、ボーイスカウトによるお餅つきが教会の庭で行われていましたが、今年は一月十二日（日）、他所でついたお餅で、雑煮、お汁粉等がふるまわれました。



【西川神父様

誕生日パーティー】

一月十九日（日）はたまたま西川神父様の誕生日と重なったこともあり、祝賀パーティーが盛大に催されました。

急遽用意された歌集（神父様の選曲によるもの）を手に、神父様を中心に多くの歌が歌われました。

また、「わいわいランチ」メンバーにより用意された豪華な食事等もあつて、大いに盛り上がりました。

このパーティーの後は、コロナ禍により、キリスト教で最も大切な復活祭のミサも中止となり、当然ながらミサ後のパーティーもありませんでした。

今後、早期に皆さんで盛り上がる宴会ができる日が来ることを望むのは私だけでしょうか？



【信徒総会】

一月二六日（日）午前九時からのミサの後、信徒総会が開催されました。

渡部前委員長からの活動報告、山田新委員長からの活動方針、決算・予算等の議案が審議され、いずれも賛成多数で承認されました。

【公開ミサ中止】

二月二六日の「灰の水曜日」のミサを最後に、菊地大司教様の通達により、新型コロナウイルス感染症対策のため、二七日以降公開のミサが当面の間中止とされました。

【六月二十一日公開ミサ再開】

六月二十一日（六月二十日土曜日の居一八時のミサ）から、

① 聖堂内での密を避けるため

人と人の間隔を一・五から二メートルとること

（このため、定員が四十五名となりました。）

② 聖堂に入る前に氏名を記入し、体温を測り健康状態をチェックする

③ 七五歳以上の方や基礎疾患を持った方は参加を自粛する

等の条件のもと、公開ミサが再開されました。

ミサの様子をご覧ください。

九月一九日以降は、年齢制限はなくなりました。





【洗礼式】

七月五日（日）午後二時から、洗礼式が執り行われました。

本来であれば復活徹夜祭で洗礼を受ける予定であった五

名の方が受洗されました。

（受洗者のお名前等は信徒動向をご参照ください。）

待ちわびた洗礼に、受洗者は大変感激しておられました。多くの信徒の皆さんの前で、行われるべきところですが、時節柄当日の参加は受洗者、代父母、少数の信徒だけとなりました。



【初聖体式】

十月二十五日（日）十時のミサの中で、初聖体式が行われ、五名の子ども達が初聖体を受けました。

例年ならば初聖体式は六月頃行われていましたが、今年はこちらも遅くなりました。



【七五三のお祝い】

十一月十五日（日）十時のミサの中で、七五三のお祝いがあり、三名の可愛いお子さんが祝福を受けました。

